

(四) 西山五郎

―伝染病とたたかった医者

西山五郎は、元治元年（一八六四年）、今の東京四ツ谷の漢方医の家に生まれました。明治二十二年（一八八九年）に今の東京大学医学部を卒業しましたが、いろいろな事情で河津町見高の真乗寺にいました。

稲取村の初めての村長となった田村又吉などは、すぐに西山のところに行き、稲取で医者になることをお願いしています。明治二十三年（一八九〇年）に西山は、稲取で医者になることを決め、稲取村も西山のために病院や家などを建てるなど協力をしました。

西山が取り組んだことは、コレラなどの伝染病を退治することです。稲取は昔から飲み水がよくなかったので、伝染病に苦しんでいました。大学で西洋の医学を学んでいた西山は、飲み水がよくないことに気づき、水道を敷くことを考えます。稲取村は、沼津川（ぬまつかわ）を水源として八〇〇間（約一四五四メートル）の

木製の水道を作りました。

また、五十尻に避病院を建て、伝染病にかかった人を入院させて伝染病がうつらないようにしました。

西山は、医者の仕事だけでなく、若者たちに楽しみが少ないのをみて、東京の青梅から「無言おどり」を伝えました。これが稲取の夏祭りで踊られる「ばかばやし」です。西山のこのような人柄は、稲取の子供から大人まで広く尊敬を集めました。昭和十五年（一九四〇年）に亡くなりました。



福建視察団集合写真より抜粋